

社会貢献活動促進基金活用事業費

事業評価個票（事業実施：平成30年度）					部局名	観光文化スポーツ部		
短期アクションプラン	テーマ	テーマ1 郷土愛を育み未来を築く子育て支援・多彩に活躍する人づくり						
	施策	施策4 多種多様な能力発揮の促進						
	目的	年齢や障がいの有無、国籍を問わず、一人ひとりが自らの個性や意欲、能力をあらゆる分野で発揮し活躍できる社会をつくる。						
	目標指標(R2)	やまがた社会貢献基金助成金額(累計)		令和2年度までの累計459百万円				
	策定時の実績	379百万円(H28年度)	現状	379百万円(H28年度)	主要事業	多様な主体の連携・協働の促進		
事業名	社会貢献活動促進基金活用事業費			担当課・担当	県民文化スポーツ課 県民活動推進担当			
事業開始年度	平成20年度			事業終了(予定)年度	未設定			
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	県内におけるNPO等の多くは、活動資金や人材不足など経営基盤の強化が必要となっているため、こうした問題の解決を図り、NPO活動を県民が支える機運を高めるため、山形県社会貢献活動促進基金(愛称:やまがた社会貢献基金)に対し県民等から寄附を受けて、社会や地域が抱える問題に取り組むNPO等に対して助成を行う。							
事業概要 (5行程度で簡潔に)	<p>上記目的を達成するため、以下の事業を行う。</p> <p>1 団体支援助成事業・・・基金に予め登録された団体が行う事業に助成する。 2 協働助成事業(テーマ型)・・・県政課題などによりテーマを設定し、県との協働事業提案をNPO等から公募し、助成する。 3 協働助成事業(一般型)・・・寄附者が希望する事業テーマに基づきNPO等が企画・実施する事業を公募し、助成する。</p>							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由:NPO等の自由で先進的な発想や専門的なノウハウ等を活かすため。							
予算額・決算額 (単位:千円)	費目(予算見積書のグループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	NPO活動促進事業	25,117	37,000					
	基金制度推進事業	1,819	2,310					
	計	26,936	39,310	0	0	0		
財源内訳 (単位:千円)	国庫支出金							
	繰入金	26,936	39,310					
	その他特定財源							
	一般財源							
	計	26,936	39,310	0	0	0		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	やまがた社会貢献基金助成件数(累計)	活動実績	件	469	502			
		当初見込み	件	469	509	549	589	629
成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	やまがた社会貢献基金助成金額(累計)	成果実績	百万円	403	431			
		目標値	百万円	399	419	439	459	479
		達成度	%	101	103			
関連事業	社会貢献活動促進基金運営事業							

事業目標の考え方(事業目標設定時)

住民同士が互いに助け合う「共助」や社会貢献に関する意識の高まりがみられ、社会貢献の担い手となるNPO法人も年々増加している一方で、県内のNPOの多くは、活動資金や人材不足など経営基盤の強化が課題となっている。
やまがた社会貢献基金による支援を通して、NPO等の活動基盤の充実・強化を図りつつ、県政や地域の課題の解決に向けて、県民・NPO等との連携・協働を推進する事業である。
本事業目標は、やまがた社会貢献基金の寄附実績等を勘案して設定した。

事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	地域や社会のために貢献したいという県民や企業の想いを寄附という形でやまがた社会貢献基金に預かり、基金を活用してNPO等へ助成を行い経営基盤の強化を図ることにより、社会貢献活動を県民が支える気運を醸成するものである。 やまがた社会貢献基金助成金額は、これまでの寄附実績や助成実績を勘案して設定したもので、妥当である。 NPOが行う様々な分野の事業33件に助成を行い、県や企業等とNPOが協働して県政や地域の課題の解決に向けた取り組みを行うことができた。
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	
	目標水準は妥当か。	A	
	期待する成果が得られたか。	A	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	—	
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	A	平成30年度は、助成件数が前年度に比較し減少したものの、NPOの基盤強化に取り組む中間支援NPOに重点的に助成したことなどにより、助成額は増加した。 助成先は、「山形県NPO推進委員会」の委員が、申請者からの企画提案書や公開プレゼンテーションにより審査を行って決定されるため妥当である。 助成の対象となる経費は、事業実施に直接要する経費に限定しており、それ以外の経費は受益者負担としている。
	支出先の選定は妥当か。	A	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	
	類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A	
の役割 妥当性 分担	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	助成事業の実施にあたっては、事務の一部を中間支援事業を行うNPOに委託し、NPOならではの視点から助成事業の支援を行った。
今後 改善の 点課題 ・	事業を継続していくため寄附募集を推進していくとともに、各分野のNPOの活動が様々な県政・地域の課題に対してより有効に機能するよう、中間支援NPOが取り組むNPO基盤強化事業に対する重点的な助成を継続していく。		

- ・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。
- A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。
- B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。
- C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。
- : 該当しない